



佐賀牛A5ラウンド with むつごろう R 8.9.19(土)佐賀市立赤松小学校 (+Zoom)

研究会当日は、県内外から多くの先生方に御参加いただき、それぞれの実践を基に体育・保健体育の授業づくりについて学びを深めることができました。本研究会では、「12年間の系統性」をキーワードに、校種を超えて体育・保健体育の価値や今後の在り方について協議を行いました。

1 今年度の発表内容

実践発表1 唐津市立鬼塚小学校 教諭 末成 弘典 先生「誰もが楽しめるゴール型ゲームの教材を目指して」
フラグフットボールの実践について報告がありました。児童の実態を丁寧に捉えながら、苦手意識をもつ児童も参加しやすいルールや場の工夫について紹介されました。また、児童同士が協力して課題解決に取り組む姿を引き出す手立てについても共有され、主体的に学習に参加する児童の姿が報告されました。

実践発表2 発表者：保健体育課 指導主事 江口 健一 「『楽しい』が自信につながる体育」

体育授業における「楽しい」という感覚を大切にしながら、生徒が自信を高めていく学習過程について発表しました。技能向上だけを目的とするのではなく、一人一人が成功体験や達成感を味わうことを通して、運動への肯定的な態度を育む実践の紹介であり、また、「楽しい」を支える問いや対話の在り方についても提案しました。

実践発表3 発表者：保健体育課 指導主事 寺田 隆宏 「児童が運動を面白くする体育の授業づくり」

器械運動領域を中心に、児童自身が運動の面白さを発見し、追究できる授業づくりについて発表がありました。教師が教えるだけでなく、児童が仲間との関わりの中で課題を見つけ、解決方法を考えていく学習過程が紹介されました。子供たちの主体性を尊重しながら学びを広げる実践に、多くの参加者が関心を寄せていました。

2 グループワーク

グループワークでは、「12年間の系統性」をテーマとして、小学校から高等学校までの体育・保健体育の学びのつながりについて協議を行いました。校種を越えたグループ編成としたことで、それぞれの学校段階で大切にしている内容や課題を共有することができました。

特に、運動やスポーツの「楽しさ」をどのように積み重ねていくのかについて活発な意見交換が行われました。小学校では運動する心地よさや成功体験、中学校では仲間との協働や多様な楽しみ方、高等学校では自律的なスポーツライフの実現へとつながる視点について協議が深められました。

参加者からは、「校種間で育てたい資質・能力を共有できた」「運動の特性や楽しさを軸に系統性を考える視点が参考になった」といった感想が聞かれ、有意義な学びの場となりました。

3 情報提供

情報提供では、埼玉大学石川泰成先生より、今後の体育・保健体育の在り方について御講話いただきました。近年の教育動向を踏まえながら、「体育・保健体育を学ぶ意義と価値」を改めて問い直す内容でした。

特に印象に残ったことは、単に知識や技能を身に付けるだけでなく、「なぜ学ぶのか」「学んだことがどのように役立つのか」といった本質的な問いを大切にすることが必要であるということです。体育・スポーツを通して育まれる資質・能力は、生涯にわたる健康やウェルビーイング、さらには共生社会の実現にもつながるものであり、授業の中でその意義や価値を子供たちが実感できることが重要であるとの提案がなされました。

4 夜の情報交換会

会終了後は、恒例となっている情報交換会を開催しました。校種や地域を越えて体育・保健体育について語り合う貴重な機会となり、授業実践や学級経営、教員としてのキャリア形成など、多岐にわたる話題で交流を深めました。研究会で得た学びをさらに広げたり深めたりできるのが、この会の魅力です。改めて、人と人とのつながりが体育・保健体育の実践を支える大きな力であることを実感する時間となりました。

最後になりますが、御参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。今後も体育・保健体育ネットワーク研究会のつながりを大切にしながら、子供たちにとってよりよい体育・保健体育の学びを創造していきたいと思います。

(文責：江口健一)

来年も佐賀で
お待ちモウしあげます！

